

令和2年10月23日 信者心の道勉強会

神 示

人間は

神の手の中 運命を通して 心守られ 有限の時を歩む
人生の姿と申す

使者供丸齋も同じ

神の手の中 救世の力を与えられて
神示教会の礎を築いた

この功績は 偉大で尊い

信者は この真実を忘れてはいけない

この思いが深まるほど

人は使者供丸齋を人生の手本と仰ぎ 力を求める

ますます信者の心に 「道」を守り抜く心が芽吹く

神魂の時代を迎え

今日 代神として信者の心を見詰め 守っている

祈願の折 代神の御名を唱える意味をよくよく悟り

畏敬の思いを深めるべし

信者に申す

「運命」の力を信じ

「運命」に重なる人生を

神に求めて「教え」を学ぶ

「真理」の深さが心に映り

ますます「道の真理」に悟りを深める

「真理」に生きて 人の心は磨かれ

生きがい味わう人生を歩んでゆける

人生は、有限です。有限ではあるけれども、神から与えられた世に役立つ運命を通して、一人一人が守られています。その運命を生かして、人生を悔いなく歩めば、無限に続く心の道が引き上げられていきます。

使者の道を歩まれた供丸齋先生は、神から救世の運命を授けられ、神示教会の礎を築かれました。この偉大な功績を決して忘れてはなりません。

そのような供丸齋先生の存在に感謝の思いが深まるほど、供丸齋先生の生き方を手本と仰ぎ、代神としてのお力を求める心になるでしょう。教えに生きて、運命を磨くことに努めるはずです。

神魂の時代の今、供丸齋先生の御魂は代神として、一人一人の心を見詰め、お守りくださっています。ですから、祈願する折、ただ代神の御名を唱えるだけでなく、その意味をよく悟り、畏敬の念を持って心を重ねることです。

一人一人が持つ運命は、その人なりに必ず社会の役に立つものです。その秘められた力を信じ、運命に重なる人生を求めて、教えの実践に努めることです。教えを学ぶのは、取りも直さず自身を高めるためです。すると、神が説かれる真理の深さが心に映り、道理に沿って生きる信念が強くなるでしょう。

教えが身に付けば、生き方は難しくありません。規則があれば、守るのが当たり前です。不満に思う必要などありません。混雑を好まないなら、混雑している所には行かなければよいことです。待つように言われれば、待つだけです。

道の真理、道理にかなう生き方ができれば、不安も、不満もありません。そして、実体が抑えられ、運命が引き出されていきます。自身の良さが人のために役立つ、生きがいのある人生を歩んでいくことができます。

供丸齋先生の生き方を手本と仰げば、筋道の通った考え方ができ、迷い、行き詰まりがなくなります。教えを生きる信念に据えて、人生を正しく生き抜くことができます。